

開催案内

マンスリーセミナー

479 回	4/25 (火)	ペロブスカイト太陽電池： 実用化に向けた開発研究の最前線	京都大学 化学研究所 複合基盤化学研究系 教授 (株)エネコートテクノロジーズ 取締役 若宮 淳志 氏
<p>(内容) ABX₃ 型のペロブスカイト半導体を用いた太陽電池が、次世代の太陽電池として注目を集めている。本太陽電池は、材料の溶液の塗布成膜など低温プロセスで作製可能であり、フィルム基板を用いることで、軽量・薄型・フレキシブルな太陽電池を作製することができる。我々はこれまでに、材料化学の視点から、ペロブスカイト太陽電池の高性能化に取り組んできた。2018年には、得られた成果をもとに、大学発ベンチャー(株)エネコートテクノロジーズを設立し、本太陽電池の実用化に向けて開発研究に取り組んでいる。本発表では、我々の研究成果を中心に、ペロブスカイト太陽電池の原理や用いる材料の開発研究について紹介する。</p>			
480 回	5/16 (火)	空間分割多重技術を用いた 次世代光ファイバ通信技術の研究開発動向	株式会社 KDDI 総合研究所 先端技術研究所 光部門 執行役員 釣谷 剛宏 氏
<p>(内容) マルチコア光ファイバ等を用いた空間多重伝送技術が次世代の光ファイバ及び光ファイバ伝送技術として注目されている。既存のシングルコア光ファイバは、これまで新たな伝送方式にマッチする形で広帯域化や低損失化の観点で進化し実用化されてきた。Beyond 5G やデジタルツインの実現に向けては、既存ファイバの伝送だけでは容量限界を迎えつつあり、新たな光ファイバ伝送技術の出現が求められている。新たな空間多重技術の適用によりこれまで既存システムの100倍以上に当たるファイバ1心当たり毎秒10ペタビットの大容量伝送の可能性を確認している。本講演では、これまでの空間多重伝送技術に関する研究開発を俯瞰しながら、実用化に向けた最新の研究開発動向を紹介するとともにその展望について述べる。</p>			
481 回	6/20 (火)	次世代データセンター向け光スイッチ技術	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 エレクトロニクス・製造領域 プラット フォームフォトンクス研究センター 研究員 松本 怜典 氏
<p>(内容) 光スイッチは電気スイッチよりも飛躍的に高いエネルギー効率を示すことから、光ネットワークやコンピューティング領域などにおいて大容量データの転送経路を高速に切り替える動的再構成の場面で有用であり、電気スイッチの負荷を軽減する重要な技術として期待されている。本セミナーでは、一般的な光スイッチの構成や動作原理を解説し、次世代データセンターに求められる光スイッチの要件を説明する。そして、これまで産総研で開発してきたシリコンフォトンクススイッチの変遷を振り返り、大規模・大容量化に向けた今後の課題や展望を述べると共に、光スイッチネットワークへの適用例を紹介する。</p>			

最新情報は光産業技術振興協会のマンスリーセミナーのページをご覧ください。

会場：オンライン開催 (Webex)
時間：午後3時30分～5時30分
定員：90名 (申込先着順)
参加料：協会賛助会員：1,500円 (1回につき・消費税込)
一般参加：3,000円 (1回につき・消費税込)
大学・公的機関：無料 (学生・院生含む)
支払方法：銀行振込

申込方法：マンスリーセミナーHPをご確認の上、
メールにてお申し込みください。
<http://www.oitda.or.jp/main/monthly-j.html>
問合せ先：光産業技術振興協会 開発部 瀬戸山
TEL：(03)5225-6431 E-mail：mly@oitda.or.jp